



会長挨拶

全国自立援助ホーム協議会会長 串間 範一

今号内容

1 ページ

会長挨拶

2～4 ページ

全国大会 報告

5 ページ

新任職員研修 報告

6～7 ページ

実践報告大会 報告

7～13 ページ

各ブロック活動紹介

14 ページ

編集後記

2024年の始まりに際しご挨拶申し上げます。

皆様におかれましてはお障りなく新年を迎えられたと拝察いたします。しかし、残念なことに年明け早々の元日夕方に能登半島を中心とする広範囲の地震災害が発生しました。多くの被災者が今までの「普段の生活」ができなくなり、今からの暮らしへの不安で心痛めておられることに寄り添いたいと思います。そんな中、ひとり孤独に現実と向き合っている若者もいるのではないかと気がかりです。

生活の立て直しのための支援は私たちの得意とするところであり、物的・精神的な支援を行なえるよう協議会としても行動を起こしたいと思います。どのような支援が必要なのかを早急に点検し進めていきたいと思います。

私たちは、子どもたちの幸せを願いつつ日々の支援を行っています。最近思うに、幸せをつかむために大切な事とは何なのかと・・・自分の幸せは他者の幸せと同等でなければ、自分さえよければという勝組負組みたいな風潮にまどわされない幸せを子どもたちには掴んでほしいと思います。では、それはどうすればいいのでしょうか。

私は「円満な幸せ」という言葉が浮かびます。他者の幸せを願い自分も幸せにつながっていくというイメージを持ちます。それは、社会的養護に関わる私たちそのものではないでしょうか。入居者の幸せを願いつつ実はそのこと自体が私たち自身の幸せになっているような気がします。

改正児童福祉法が4月から施行されます。制度改革に一貫していることは、子どもや若者の持っている権利や尊厳を大切にしながら、ウェルビーイングを目指すという視点です。私たちは、一人ひとりの入居者の幸せのお手伝いをするために必要な環境を整えようと活動してきました。その結果として今回の自立援助ホームに係る予算付けにおいて、一般生活費の増額や個別担当職員の配置などが実現しました。国において自立援助ホームでの支援の現況を踏まえていただいた結果であり、日頃から各ホームが関係機関との信頼関係を築いていただいた結果でもあると皆様のご努力に感謝申し上げます。

制度が強化されたことにより、今一層の支援力の充実を目指さなければなりません。改正の趣旨を踏まえ第三者評価事業苦情解決、利用者本位の支援サービスの実現に向けて協議会としても支援の質の向上のための手立てを再考し実践していきたいと思います。また、職場における人材育成と「ゆとり」ある労働環境の実現も重要課題であり、今後も皆様の「想い」を受け止めながら進めてまいりますので、更なるご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【全国自立援助ホーム協議会 第28回 北海道札幌大会 報告】

“私たち”の自立援助ホーム ～心理的ケアなど、“ていねいな生活支援”とは～

【1日目】 令和5年10月19日(木)

1. 開会式(20分) ○主催者挨拶 ○来賓挨拶
2. 行政説明(40分) ○こども家庭庁(予定)
3. 基調講演(90分) 「子どもたちのこころに近づくために～支援者としてのあり方」
田中 康夫 氏(北海道大学名誉教授、こころとそだちのクリニック・むすびめ院長)
4. 分科会(90分)
 - ① 『当事者参画の実践と被虐待児のレジリエンスについて』
井出 智博 氏(北海道大学 准教授)
藤井 千絵 氏(NPO 法人 CAN 相談員)
 - ② 『非行や反抗をおさえられない子ども達』
富田 拓 氏(網走刑務所 児童精神科医)
 - ③ 『退居者支援の実践と退居前にできるホーム内支援の実践』
高橋 一正 氏(NPO 法人 青少年の自立を支える道南の会 理事長
自立援助ホームふくろうの家 元ホーム長、現自立支援担当職員)
安田 徹 氏(社会福祉法人 北翔会 札幌乳児院児童家庭支援センター
社会的養護自立支援事業 自立支援コーディネーター)
 - ④ 『伝わってるかな？気持ちとコトバ～自分も相手も尊重するコミュニケーション』
姉帯 美和子 氏(MIW 工房 コミュニケーション・ナビゲーター)

【2日目】

1. シンポジウム(110分) 『自立援助ホームが担うこれからの支援のありかた』
<シンポジスト>
秦 直樹 氏(社会福祉法人 常徳会 理事長)
小貫 晃一 氏(社会福祉法人 緑伸会 理事、とらい・あんぐる ホーム長)
屋代 通子 氏(NPO 法人 CAN 理事)
<コーディネーター>
松本 伊智朗 氏(北海道大学 教授)
2. 閉会式(30分)
○周年祝い ○主催者挨拶 ○実行委員長挨拶 ○次期開催地挨拶



全国自立援助ホーム
協議会 第28回
北海道札幌大会報告

感想
大屋 竜太氏
かんらん舎

札幌大会参加して 感想

かんらん舎 大屋 竜太

今回が初めての全国大会への参加という事もあり、期待と不安、そしてたくさんのお名前を抱え福岡の地から北海道へ降り立ちました。今回の研修では『丁寧な生活支援』をテーマに日常の中で沢山の課題を抱えた子ども達にどのように関わっていくか、沢山の課題があふれ出してくる子ども達をどう理解すればいいのか等、子ども達に関わる身として、本当に多くのヒントを頂きました。私はまだほんの数年ほどしか自立援助ホームには関わっていませんが、その短期間で暴言や暴力、器物損壊や窃盗、薬物や自傷行為など本当に息つく暇もなく次々にいろいろなことが起こります。そんな沢山の課題を抱えた子どもを理解しようと共に生活し、支援を通して共に歩いていく難しさに我々が担っているこの仕事の素晴らしさをこの研修を通して改めて実感しました。

本当に頑張っているなど自分を褒める反面、あの時はこんな風に対応するのが良かったのかと反省もあり、ホームにいる子たちの顔や今までの関わりを思い返しては、次同じ様な場面があったらこんな風に関わってみようと良い振り返りの場にもなりました。

懇親会では、初参加にも関わらず、沢山の人が受け入れて下さり、今までの各々のホームでの経験や私の悩み、はたまた趣味の話などまだまだ話足りないと思えるほど楽しい時間でした。また、色とりどりの北海道の食とサッポロビール、バンド演奏や一緒に踊るよさこいなど、北海道ならではの文化にもたくさん触れさせていただき、心身ともに大満足の研修となりました。

このようなとても実りある研修を開催して頂いた実行委員の皆様や関係者の皆様本当にありがとうございました。心も体もリフレッシュでき、これからも楽しく、楽をせず子ども達と共に自立に向けて頑張っていこうと思います。

さて、来年は『食の宝庫』福岡での開催という事で、ラーメンや水炊き、明太子などの食文化はもちろん、福岡の独特の文化にも触れて頂けたら幸いです。我々自慢の福岡の地を思う存分楽しんで心も体もリフレッシュして頂ければと思います。それでは来年、沢山の皆様のご参加お待ちしております。

全国大会に参加して

とらい・あんぐる 本庄碧

全国自立援助ホーム
協議会 第28回
北海道札幌大会報告

感想

本庄 碧 氏

とらい・あんぐる

私は今回、初めて対面での全国大会に参加させていただきました。

研修では、行政説明や先生方のお話を聞くことができ、基礎を深める学びと最先端の情報を得ることができました。

大会中には多くのホームの方ともお話させていただき、入居されている方の個性や地域性…などの違いはあっても、同じような支援の悩みがあることがわかりました。それらの多くは、自立援助ホームに来る子どもたちの心の訴えや葛藤が作り出すものがほとんどだと実感し、他ホームの先輩方からのアドバイスを頂けたことが大きな励みとなりました。

私は入職して4年目となり、ちょうど仕事にも入居者さんとの関わりにも慣れてきた時期です。しかし、今回学んだ自立援助ホームが担う役割を忘れず、小さな声にも耳を傾けられるような大人となれるように努めて参ります。

懇親会では、北海道メニューの食事をいただきながら、地域の学校や活動団体による踊りや演奏を楽しみました。地域に根差していく「自立援助ホーム」の在り方を学ばせていただきました！北海道ブロックの皆さま、本当にありがとうございました！！



美味しかったです！！

- ・鮭のちゃんちゃん焼き
- ・味噌ラーメン
- ・石狩鍋
- ・ジャガバターなどなど

全国自立援助ホーム
協議会
新任職員研修 報告

感想

小口 氏
マルコの家

五十川 氏
夢住の家

【新任職員研修 報告】

1. 開催日時 2023年12月18日(月)～19日(火)
2. 実施方法 現地対面
3. 場 所 神戸市立総合福祉センター第5会議室
4. 研修内容

【1日目】演習・グループディスカッション

【2日目】講義「スーパーバイズ 迷子の支援者にならないために」

講師：山梨県立大学教授 山田勝美氏



マルコの家
小口 氏

私は、児童養護施設で働いた経験はありますが、自立援助ホームの職員としてはまだ半年を過ぎた程度です。この研修ではどんな方と出会い、どんな勉強が出来るかとても楽しみでした。参加者の方々は私が想像した以上に様々で年齢も前歴も多様、ホームも新設から10年以上のホームまで全国の方達と出会って視野が一気に広がりました。また、生活圈も世代も違う方たちと共通の悩みを話すことで更に視野は広がり、山田先生の講義で深みも生まれました。

今回のテーマである「繋がり・支え・考える」『「迷子」の支援者にならないために』を全て実感する事ができ、私の心は充実感で溢れました。共感・共鳴するだけでなく、なぜそうなのか、それを追求しなければ課題が生かされません。それには勉強が必要です。研修は学ぶために最高の環境と材料が整っている所です。皆さんも可能な限り、研修に参加してみてください。そして繋がりを作り、考えを深めましょう。そうすれば、私のように迷子にならずに済みますよ。



夢住の家
五十川 氏

今回の新人研修で、普段の勉強で触れるようなことがないスーパービジョンの機能・効果について知ることができて大変身になる研修でした。スーパービジョンについては大学の講義で勉強したことでしたが、時間が経って忘れていた部分が多くあり、今回の研修で改めて勉強する事ができました。また、今回の研修を通して、広く他の施設の新人職員と意見交換をすることができて、他のホーム支援のやり方・あり方・施設のルール等を聞いて、自分の知らない知識・見識を広げる事ができました。

実践報告大会～自立支援担当職員の実践と課題について～ 開催報告

1. 開催日時 2024年1月29日(月)～30日(火)
2. 場 所 後楽ホテル(岡山県)
3. 実施方法 現地対面
4. 研修内容

【1日目】

- ・自立援助ホームと児童養護施設の退居者支援について
- ・アフターケア相談所の取り組みについて

講師:アフターケア相談所ゆずりは 高橋亜美氏

【2日目】

- ・パネルディスカッション どうする?退居者支援
- ・グループディスカッション

全国自立援助ホーム
協議会
実践報告大会 報告

感想
木下潤子 氏
ソレイユ

研修に参加して

ソレイユ 木下潤子

ソレイユでは、今年度から自立支援担当職員(加算Ⅱ)を配置させて頂きました。退居者が増えてきて、予算立てしないと回らなくなりました。加算を頂くということは、それだけ実績も伴うようにと思い120回という回数は夏前にはクリアしていましたが、何をどうしているのか暗中模索の中におりました。岡山での開催ということもあり飛びつく思いで参加させて頂きました。1番はパネリストの皆さんが笑顔いっぱい話されていて、「元気」を頂く、取り戻した!という感じです。出口の見えない支援に途方に暮れたり、目の前の事に忙殺されたり、支援者の支援を頂きながらの毎日になっていて、田村氏の「自身も楽しみながら」支援されている様子に、ソレイユの支援の在り方を振り返りながら同じく参加した担当職員とともにホームに持ち帰り、利用者さんの子育て支援を「バーバの子守り?」に変えてみるなど、「私たちも楽しみながら支援をしていく」を考えていこうとしています。

「アフターケア相談所ゆずりは」は、以前テレビで拝見していて、アフター事業所との関わりをまずは在所中に連携出来たら?と思いアフター事業所「en」との関わりをこの時に始めさせて頂いた事、記憶しています。高橋氏の「安全」と「楽しさ」を積み重ねていかれている様子に励まされ、本間氏からは自立支援担当職員の要項、役割を丁寧に教えて頂きました。

ホームに在所されている時は通過点であり「同じ釜の飯」(笑)を頂きながら関係性を作り、卒所されてからが支援の本番!という思いになりました。この研修のパネリストのみな様、出席されたみな様、この研修を企画、計画し開催の為に時間を割かれた研修委員のみな様に、感謝とお礼の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

全国自立援助ホーム
協議会
実践報告大会 報告

感想
大馬 明代 氏
nature

研修に参加して

nature 大馬 明代

実践報告大会～自立支援担当職員の実践と課題についての研修を終えて、一番に思ったことは、心強い仲間がいるんだなと感じたということです。悩みを共有できる方々、その悩みの解決策のヒントを提示してくれる方々、皆さんの話を聞かせて頂き勉強になり、そして気持ちも軽くなったように思いました。

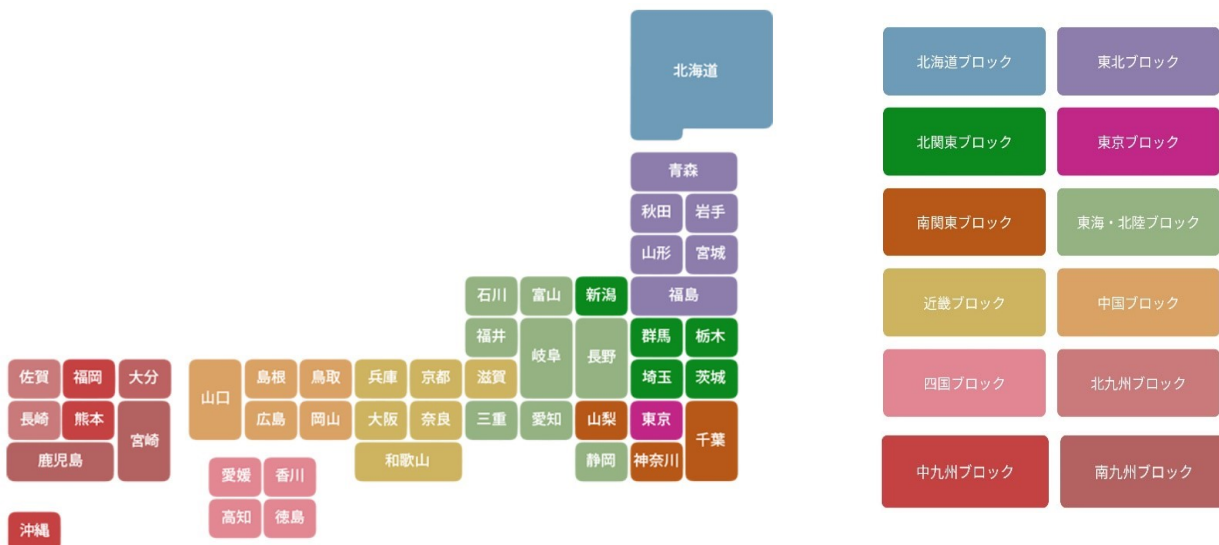
利用者さんと関わっていく上で、この支援がベストなのだろうか、利用者さんの自立に繋がっているのだろうかと思いつつ葛藤する毎日を送っている中で、皆さんの積み重ねてきた経験を聞かせて頂き、新しい発見もありました。自分自身が成長しより良い支援へと繋がっていかれたらと思います。また、今自分が抱えている不安や悩みを聞いていただき、自分だけじゃない、これでいいんだと思うことができました。そして、この研修でまた明日から頑張ろうという力を頂いたように思いました。

本当にこの会で得ることが多かったように思いました。ありがとうございました。

各ブロック活動紹介

ブロック活動紹介

ブロックが再編成され、新体制でブロックでの活動が始まりました。
各ブロックから、コメントをいただきました！



《北海道ブロック》

ブロック活動

・北海道ブロック
・東北ブロック

とらい・あぐる 小貫 晃一

昨年10月の北海道大会では、全国からたくさんのご参加をいただき、多くの学びと交流ができましたこと、改めて感謝申し上げます。大会開催に向けて北海道内のホームが一丸となって取り組むことができ、大変貴重な機会となりました。

北海道ブロックは、現在20ホームが加盟しており、今年度より協議会に合わせてブロック内でも「制度政策」「調査研究」「研修」「広報」の各委員会を立ち上げました。8月には函館で東北ブロックとの合同研修を開催し、自立援助ホームの支援の在り方などについて共に学ぶ機会ができました。また、広報では北海道ブロックのパンフレットを作成し、児童相談所や関係機関等に周知していく取り組みを行いました。ホーム長会議は、年3回開催し、会議の後は必ず懇親会を行い親睦を深めています。

このような形で、今後も協議会とも連携しつつ道内における課題等を抽出し、ブロックとして取り組んでいきたいと思っています。

《東北ブロック》

NEXT 福島 ホーム長 根本 保則

『東北ブロック・元気で一す!!』

本年度ホーム数（当初：19・現在：21 ホーム）

本年度特に印象に残る定例会・研修会

① 第4回定例会時の研修【オンライン会議】

内容：児童養護施設福島愛育園々長 遠藤嘉邦氏を講師に招き講演後に自由討論を行う。

「児童養護施設から見た自立援助ホームとは・・・養護施設の退居者支援は・・・」

② 第5回定例会時の自由討議【オンライン会議】

内容：全国協議会副会長 川口充紀氏にコメンテーターをお願いし討論会を行う。

③ 第6回定例会時の自由討議【対面・情報交換会(懇親会含)】

内容：コロナ禍以降初の対面で開催し自由設定の話題で盛り上がり時間を忘れる程・・・

その後、情報交換会と称しお酒も入りさらに大盛り上がり・・・（期待と活気を感じる）

※結論として次年度は東北最北である青森の地で何かをやろうと・・・（酒の力・・・？）

でも、何をやるのかはこれから考えることに・・・（みなさん覚えていれば良いが？）

・東北はこんな感じです。今年度は相談役をお願いしたり事務局に1人増員等してブロックの組織固めをしながら手探りの活動を行いました。

当ブロックは、お世話になった北関東ブロックから分かれて間もない新しいブロックです。これからも「決して急がず、着実にやりがいを感じながら、過度に他と比べず」このようなブロック組織でありたいと思います。

《北関東ブロック》

ブロック活動

夢舞台 新井秀親

- ・北関東ブロック
- ・東京ブロック

北関東ブロックは、埼玉県、栃木県、群馬県、茨城県、なぜか新潟県を含む、ブロック構成となっています。なぜ新潟県？と思う人がいるかもしれませんがね。約半分のホームが埼玉県にあり、今のところ群馬県と新潟県が少数ホーム地域となり、ホーム数による地域構成は、少々アンバランスと言えます。その事から、孤立無援の状態を改善し、少数ホームの地域活性化を目指し、今年度は秋に新潟県、冬に群馬県において、ブロックの定例会を開催することになりました。また、今年度当初の定例会で、ほとんどのホームがオンラインではなく、対面開催を望んだ経緯もあり、ブロック活動をそれぞれの地域に焦点をあて、全体の情報共有やブロックの交流を深めています。ホーム同士、顔の見える関係作りを目指します。

《東京ブロック》

清周寮 松本耕造

東京都の自立援助ホームは、ブロック割ができる以前からホーム長が集まり活動を始めておりました。ホーム長同士、互いの苦労と入居者の支援を確認するような始まりでしたが、今ではホーム数も増え21の自立援助ホームと3つのシェルターが共に活動しております。

集まりは月に一度、都庁会議室にて「東京ブロック会」を行い、同日に都の自立援助ホーム担当職員と区立児童相談所設置区職員も集まり「ホーム長会」を開催しております。

東京ブロックでは、総務・調査研究・研修・制度政策・広報を組織して活動しております。ホームページの開設・ブロックのパンフレット作成・各種研修の企画、都への予算要望書の作成・陳情を行うなど活動内容は様々です。

ブロック会以外でも、東京の児童養護施設の会（東京都社会福祉協議会内児童部会）にも自立援助ホーム分科会として所属しており、高齢児童への支援について意見交換し学びを深めています。

ホーム長会では、国・都の情勢についての情報共有や都の補助金、予算要望についての話し合いなどを行い、その他に都・区の児童相談所と東京ブロックとの意見交換会も年に1度行い、行政機関との連携を緊密にとっております。

東京ブロックの良いところは、ホーム長会があることで都にダイレクトに意見や要望を伝えられること、また、ホーム長・従事者共に交流が盛んであり、顔の見える関係、相談しあえることだと思います。

今後もこれまで先人たちが積み上げてきた、実践・研究そしてネットワークをより充実させていくとともに、これからもオール東京で、一枚岩で頑張っていきたいと思っております。

《南関東ブロック》

ブロック活動

みんなのいえ 小倉淳

- ・南関東ブロック
- ・近畿ブロック

南関東ブロック代表の小倉です。千葉県で、自立援助ホームみんなのいえホーム長をしています。私から南関東ブロックの立上げの理由と活動内容について説明させていただきます。

関東1都7県の内、南に位置する神奈川、千葉、山梨の3県が南関東ブロックに所属しており、南関東ブロックは協議会としてブロック制が出来る以前より、相互交流を目的に連絡を取り合い、お互いの県内研修へ声を掛けあったり、ホーム見学など交流の機会を持っていました。2017年以降、神奈川、千葉に開設ホームが増えてきたこともあり、制度の理解も併せ、相互研鑽できる場の創設が理由でした。

南関東ブロックの活動としては各県に研修企画をする熱心な職員がおり、ホームでの困りごと、悩み事、制度の勉強など、今知りたい、学びたい研修の案内をして、ブロックとして年3回の研修を実施しています。

《近畿ブロック》

こどもの里 植月健司

近畿ブロックには32ホームが所属しております（2024年2月現在）。

定期的に「ホーム長会」を開催し、約半数のホームが参加しております。ホーム長会では各ホームの現状報告や入居者の対応などで困っていることを中心にテーマを特定することなく、ざっくばらんに話し合っています（下表参照）。開設してまもないホームも長いホームでも、**何でもいいあえる関係**を大切にしています。ホーム長同士がそれぞれ個別にホームの運営や入居者へのケア方法、新規入居者の対応などについて相談し、互いに助け合っています。概ねオンラインでの開催ですが、コロナ後は他ホームの見学を兼ねたホーム長会を年に1、2回開催しております。

また、ブロック研修活動として、対面やオンラインでのスタッフ研修会を行っています。ホーム長同士だけでなく近畿のホームスタッフ同士が助け合えるような関係づくりを目指しております。

ホーム長会テーマ

- ・近隣住民への迷惑行為や触法行為をする入居者への対応について
- ・入居前のインテークの大切さについて
- ・大学進学をサポート・ステップハウスの運営方法
- ・社会生活移行支援（アフターケア）はどこまでするべきか など

スタッフ研修会テーマ

- ・入居者のトラブルとその対処法
- ・入居者との個別処遇の時間はどのくらいでなにをしてるか
- ・生活リズムが乱れがちな入居者への支援の工夫 など

《東海・北陸ブロック》

ブロック活動
・東海・北陸ブロック

うなづき 牟田吉彦

初めまして令和五年度から東海北陸ブロックのブロック長になりました富山県の自立援助ホームうなづきの牟田です。

始めに自立援助ホームうなづきは富山県で初の自立援助ホームで現在も1つのホームしかありません、男女混合で定員6名でやっております。

東海北陸ブロックは、愛知県を中心に三重、岐阜、富山、石川、福井、静岡、長野まで分けられたブロックで、およそ30ホームの自立援助ホームが活動しています。

今年度の活動報告としては、8月1日にホーム長会議を名古屋で行いました。コロナ禍明けでは初の対面会議でしたが、18ホームの参加があり、法改正、コロナ禍前と明けでのこども達の様子、各ホームなどの近況について話し合いました。個人としての感想ですが、ここ数年 zoom 会議ばかりでしたので、ようやく対面で開催できてほっとしました。

次に11月30日に富山県では初の自立援助ホームとしての研修会を行いました。研修会では真正会富山病院心療内科の院長を務める、明橋大二先生を講師としてお招きして「若者のこころのSOSに寄り添う」こころの回復のプロセスと支援についての講義を行いその後グループセッション、講師への質問など時間ギリギリまで、大変熱の入った研修会でした。集まったホームはそれほど多くはありませんでしたが、串間会長さんが、わざわざはるばる富山県まで来られてご参加していただきましたので、個人的には富山で開催して良かったと思いましたが、富山県は各ホームからなかなかアクセスが難しく時間がかかってしまうので参加された各ホームの皆様には大変感謝しております。

最後に今後ブロックとしての課題は、各ホームの参加率参加人数などをもう少し増やす為にも、zoomと対面のハイブリッド開催や、対面開催等では、なるべく参加しやすい場所での企画をして、参加しやすい状況を作っていければと思っております。

《中国ブロック》

ブロック活動

- ・中国ブロック
- ・四国ブロック

自立援助ホーム ことみ ハーレー 公治

中国ブロックは山口県 5 ホーム、広島県 7 ホーム、岡山県 6 ホーム、島根県 1 ホーム、鳥取県 4 ホームの全 23 ホームで構成されています。

中国ブロックとしての活動は、今年度は 6 月に岡山県で総会及び定例会を開催し、3 月に広島県で研修会及び定例会を開催する予定です。

ブロックの端から端までが遠いためブロック全体としての活動は回数を少なくしていますが、各県単位での活動に予算をつけ、近隣ホームでのコンパクトな活動を推進しています。

また、県単位での活動を中国ブロック他県へ周知し、他県での活動への参加をオープンにすることで横のつながりを広げ、各ホームが研修に参加できる機会を増やしていければと考えています。

《四国ブロック》

いこなす 浦田 真代

四国ブロックは、香川県 6、愛媛県 5、徳島県 2、高知県 2 の計 15 ホームで活動しています。

地方圏ならではの課題に向き合いながら、支えあえる繋がり作りや、現場の声を拾う仕組み作りを模索するため、ZOOM を活用しながら定期的に役員会、定例会を行っています。

新型コロナウイルス感染症対策が緩和された令和 4 年度からは、ブロック研修会を現地参加とオンライン参加が選べるハイブリットで開催し、ブロック外からも多くの方にご参加いただきました。貴重な意見交換、交流の機会とすることができました。

令和 5 年度のテーマを「親しみやすい協議会活動にするために」として、ホーム長でないスタッフも役員に入ってもらい、できるだけ多くの方とブロック活動のありかたについて検討してきました。今年度できた繋がりを活かし、令和 6 年度は「すべてのホームが支援の質の向上、適正な運営を心掛けられるように」をテーマに、さらに充実した研修、交流活動を企画していきたいと思えます。

《北九州ブロック》

未来 江頭 和徳

ブロック活動報告

- ・北九州ブロック
- ・中九州ブロック
- ・南九州ブロック

皆さん、こんにちは。北九州ブロックのブロック長、江頭和徳と申します。私は、長崎県佐世保市で自立援助ホーム未来のホーム長をさせて頂いております。

北九州ブロックは、佐賀県と長崎県のホームで構成され、2024年2月1日現在で、5ホームで活動しております。ホーム数が少なく、ブロック活動へ消極的なホームもあり、研修や横のつながりを持つ機会が少なく、積極的な活動が出来ていないのが現状です。しかし、今年に入り、ブロックを動かすきっかけとして、近隣ホームの職員を対象に、日々の業務で悩んでいる事、職員交流を目的に、職員研修と食事会を1月に開催しました。「この研修を定期的で開催していこう」と言った声も上がり、良い時間を皆で共有出来、今年度中にもう一回職員向け研修を開催する予定です。

活動ホームは少ないですが、ブロック内の職員と自立を目指す児童のために、少しずつ活性化させて行こうと考えております。

《中九州ブロック》

ケイ 野中勝治

新春のお慶びを申し上げます。中九州ブロック ブロック長をさせて頂いています野中 勝治 (@自立援助ホーム ケイ) です。

ここ数年の全国、また九州ブロックのホーム数の増加に伴い、九州ブロックは3つのブロックへと改編されました。中九州ブロックは発足後間もなく、昨年8月30日博多にて中九州ブロックホーム長会議を開催させて頂きました。各ホームの紹介の後に、懇親会にて深い深い親睦を深めました。今年は全国自立援助ホーム協議会 全国大会の会場が福岡に決定しており、前回の北海道に引き続き、中九州ブロックは皆様をおもてなし、また九州の良さを知って頂けたらと考えています。今後とも、中九州ブロック、九州全体をよろしくお願い申し上げます。

《南九州ブロック》

ひらく 高岡安紀子

今年度より九州ブロックが3ブロックになり北九州、中九州、南九州ブロックと分かれしました。南九州ブロックは大分、宮崎、鹿児島県の3県の5ホームで構成されております。活動といたしましては、今年度は九福臨という研修を宮崎で開催し沢山のご参加を頂きました。内容としましては、こどもたちの抱える困難さを見据えた支援を目指して、これからの社会的養護を支える人の集いをテーマに各種別の方々や児童相談所や市町村の方々と実態に即した今後の支援者の在り方を見つめることが出来る研修となりました。南九州ブロックはホーム数が少ないのですが、2月2日には5ホームの各スタッフが鹿児島に集まり、施設見学や情報交換を行いました。夜は鹿児島のおいしいお酒とお食事を頂き皆で交流会を行い親睦を深めました。本ブロックでは各ホームの現状や課題など共有しやすい、一緒に考えていけるようなブロックを目指したいと思います。

【編集後記】

山梨県にあります自立援助ホーム MIRAI の三川です。
この度の能登半島地震により被災された皆様、ならびにそのご家族の皆様
に心よりお見舞い申し上げます。

今号も発行にあたり多数のホームにご協力いただきました。この場を借
りて御礼申し上げます。記事の取りまとめで原稿に目を通すのですが、趣
向が凝らされた内容に私自身とても勉強になりました。

近年、過渡期にある自立援助ホームですが、求められる機能と能力そし
て有り方について多くを考えさせられる日々です。こども家庭庁より発表
された標記次年度予算の概要では大学受験費用の支弁・大学進学等支度費
・就職等支度費の特別加算・一般生活費の単価引き上げ・教育費及び特別
育成費・個別対応職員の配置・令和5年人事院勧告をふまえた児童養護施
設措置費の人員費の改定等、多くの予算がつきました。制度や政策、予算
について改めて協議会たよりでも特集を組みたいと思います。